

C4				2113100	
				担当部署	
C4				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→免疫・自己抗体→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			8 : 15～16 : 00		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		11-31mg/dL 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲			
臨床判断値		設定なし			
基準値					単位
					mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
11	31	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		C4(補体第 4 成分)と C2(補体第 2 成分)はともに補体古典経路およびレクチン経路の中心的蛋白である。 C4 と C2 はどちらの活性化経路においても同じ酵素によって切断されて活性化を受け、両者の活性化によって初めて C3 転換酵素を形成する.発生的にも近く、機能上よく似た、重要な蛋白である。 検査の目的として、低補体血症の原因、補体活性化の有無とその程度、活性化経路、C4 あるいは C2 の欠損症の有無、cold activation 現象の有無などを知ることを目的として測定される。低補体血症解析のために測定されることが多い。 日本臨床第 7 版 5,2009,86-87			